東海大学

スポーツボランティアを身近に
～チャレンジデーをモデルにした新規事業の提案～

東海大学
秋吉ゼミ
上杉 昂矢　　中谷 優太
沖 拓夢　　橘 尚志

目次

東海大学

1．緒言

2．現状

3．仮説

4．調査目的と調査方法

5．結果と考察

6．提言

7．期待される効果

緒言

東海大学

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催される

全種目の競技者　約1万1000人

スポーツボランティアの募集人数　**約9万人**

スポーツボランティアの存在は重要

緒言

東海大学

スポーツボランティアの実施希望率が**13.9%**であ

スポーツボランティアを行う
きっかけとなる政策を提案

行うための**環境が十分でない**

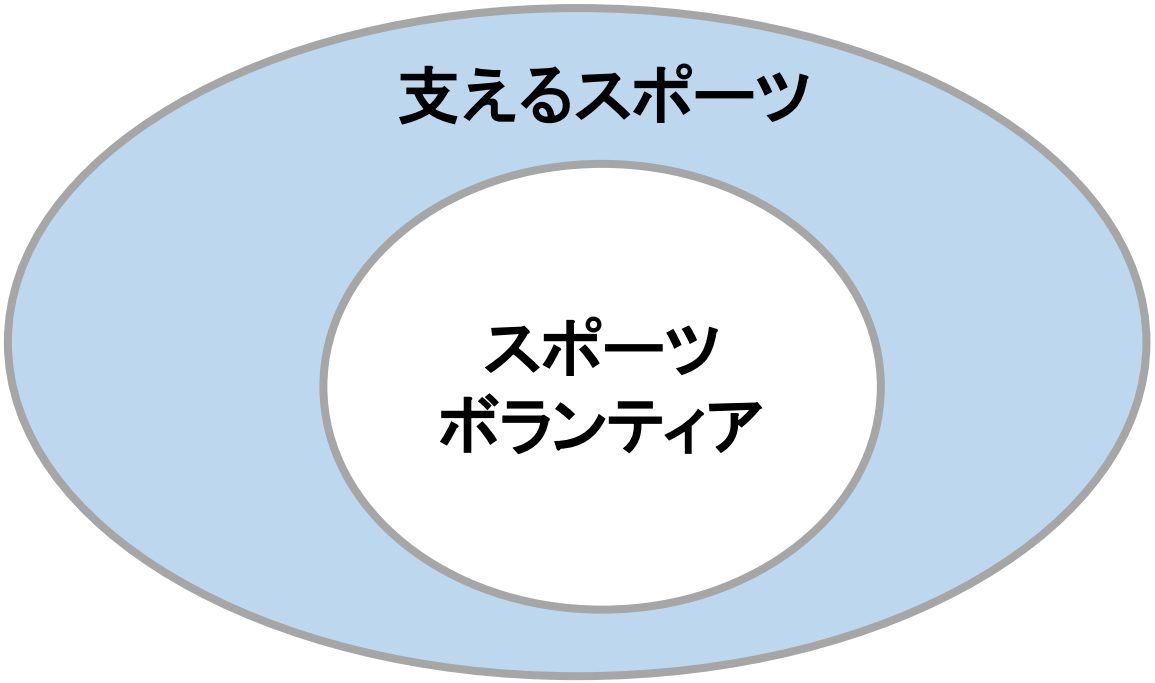
1. 緒言
2. 現状
3. 仮説
4. 調査目的と調査方法
5. 結果と考察
6. 提言
7. 期待される効果

現状

東海大学

スポーツボランティアとは？

「報酬を目的としないで自分の労力・技術・時間などを提供して地域社会や個人・団体のスポーツ推進のために行う活動」



スポーツライフデータ2016　P102参照

現状

東海大学

スポーツボランティアの分類

クラブ・団体ボランティア（クラブ・スポーツ団体）

ボランティア指導者
監督・コーチ・
指導アシスタント

運営ボランティア
役員・監事・会計係
世話係・運搬・運転係
・広報　など

イベントボランティア（地域スポーツ大会、国際・全国スポーツ大会）

専門ボランティア
審判・通訳・医療救護
データ処理・大会役員など

一般ボランティア
受付・案内・給水・給食
記録・掲示・運搬・運転
ホストファミリー　など

アスリートボランティア

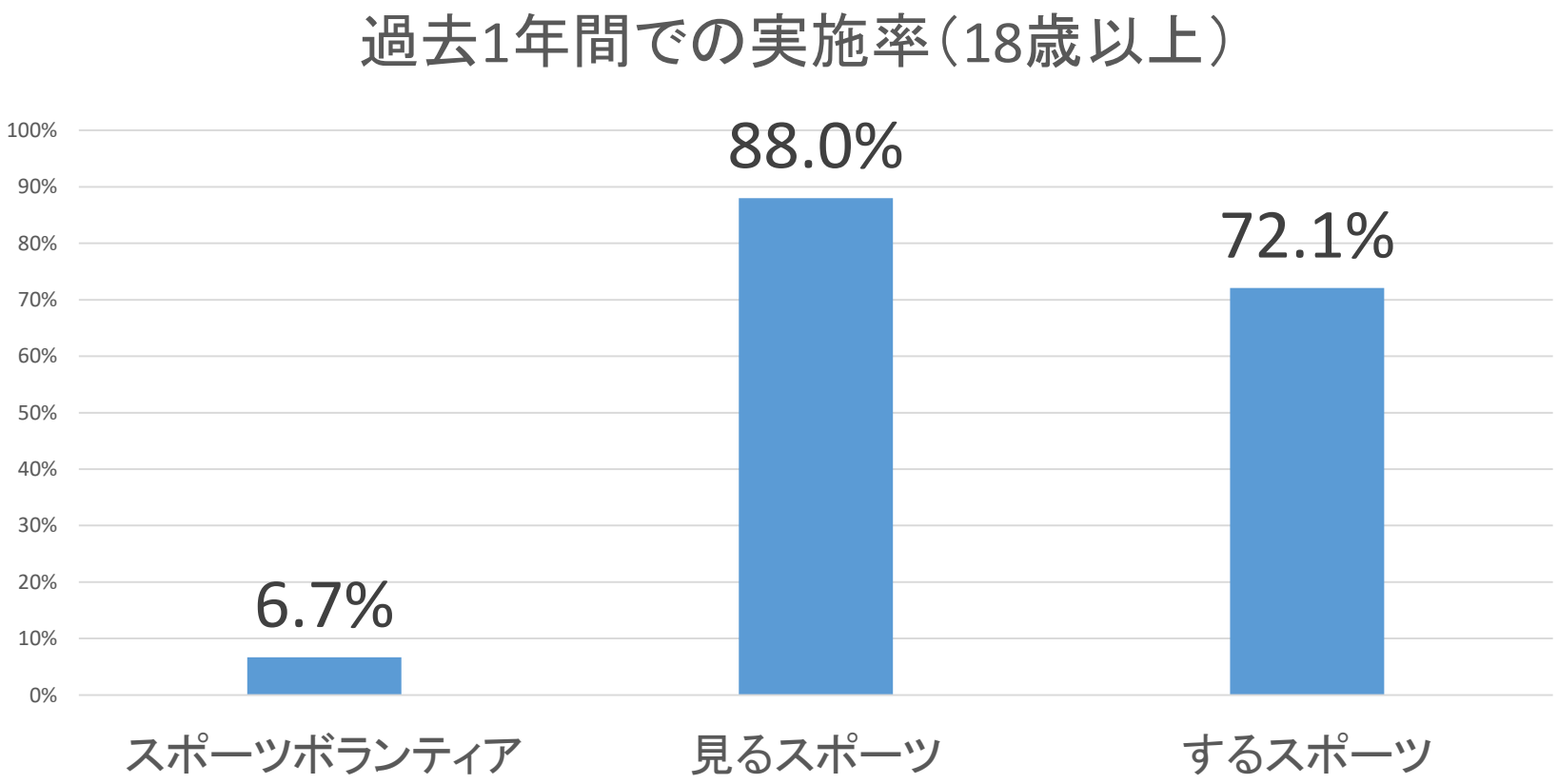
トップアスリート
プロスポーツ選手
ジュニアの指導・施設訪問
地域イベントの参加　など

スポーツ白書2017　P174参照

現状

東海大学

スポーツボランティア実施率



笹川スポーツ財団　スポーツライフデータ2016

1. 緒言
2. 現状
3. **仮説**
4. 調査目的と調査方法
5. 結果と考察
6. 提言
7. 期待される効果

仮説

東海大学

スポーツボランティアを普及させるためには
きっかけづくりとなる事業を継続的に
行うことが必要ではないか

仮説

東海大学

チャレンジデー

仮説

東海大学

チャレンジデーとは

基本ルール

15分間以上続けて運動やスポーツをした『住民の参加率(%)』を人口規模が近い自治体同士で競い合う

住民の参加率(%) ＝ 参加者(人) ÷ 人口(人)

全国共通イベント

チャレンジデーに取り組む各自治体の参加者が共通のルールにより参加できるスポーツイベントを実施

例：　スポーツゴミ拾い　　空き缶積み上げ

仮説

東海大学

チャレンジデー対戦組み合わせの例

神奈川県
秦野市

実施回数	初実施
人口	166，453人
参加者	79，108人
参加率	47．5%

VS

山口県
宇部市

実施回数	3回目
人口	168，089人
参加者	76，605人
参加率	45．6%

結果

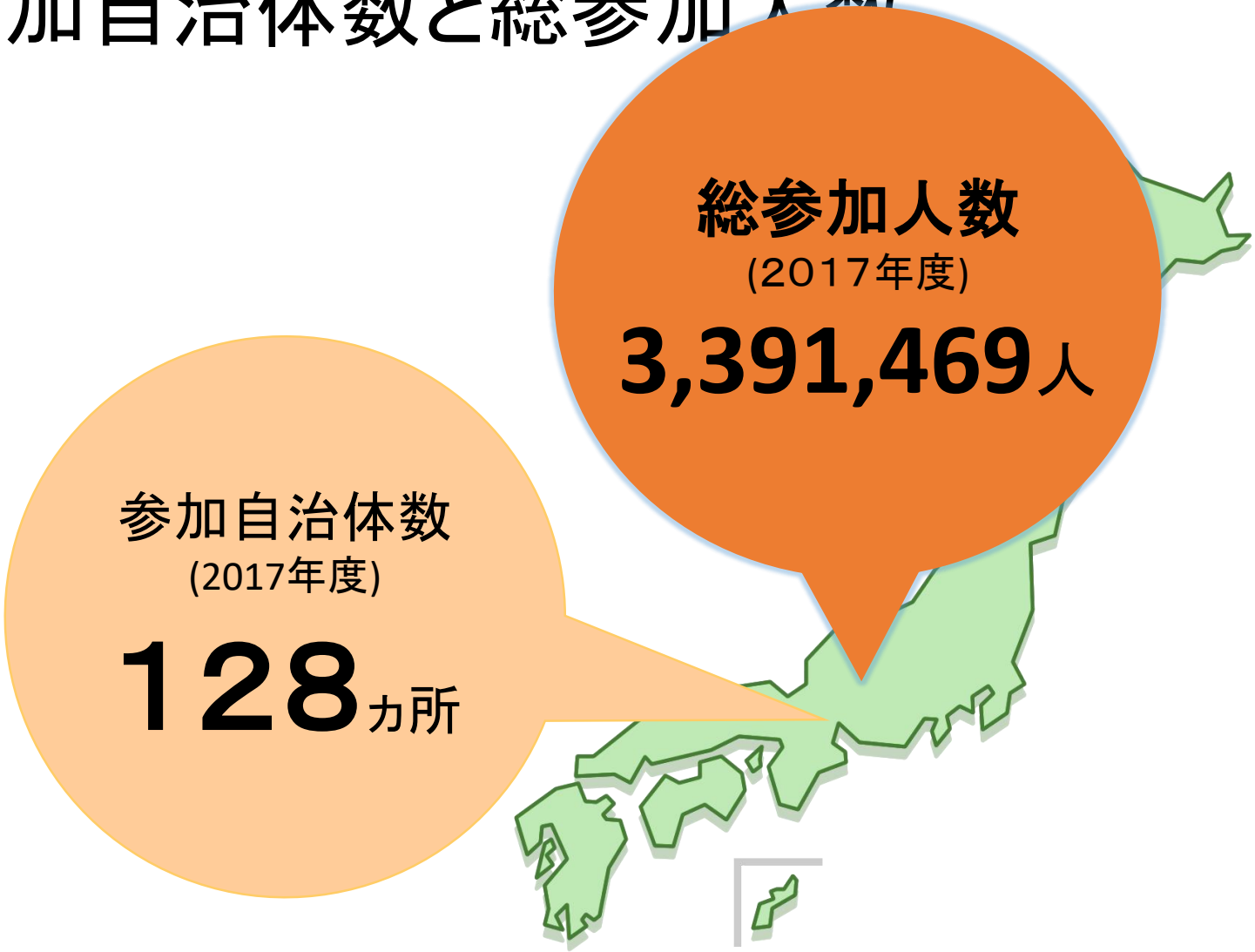
実施自治体の健闘を称え、参加率に応じて金・銀・銅のメダル認定証を授与する

※メダル授与の基準は「人口」と「参加率」によって決定する

仮説

東海大学

参加自治体数と総参加人数



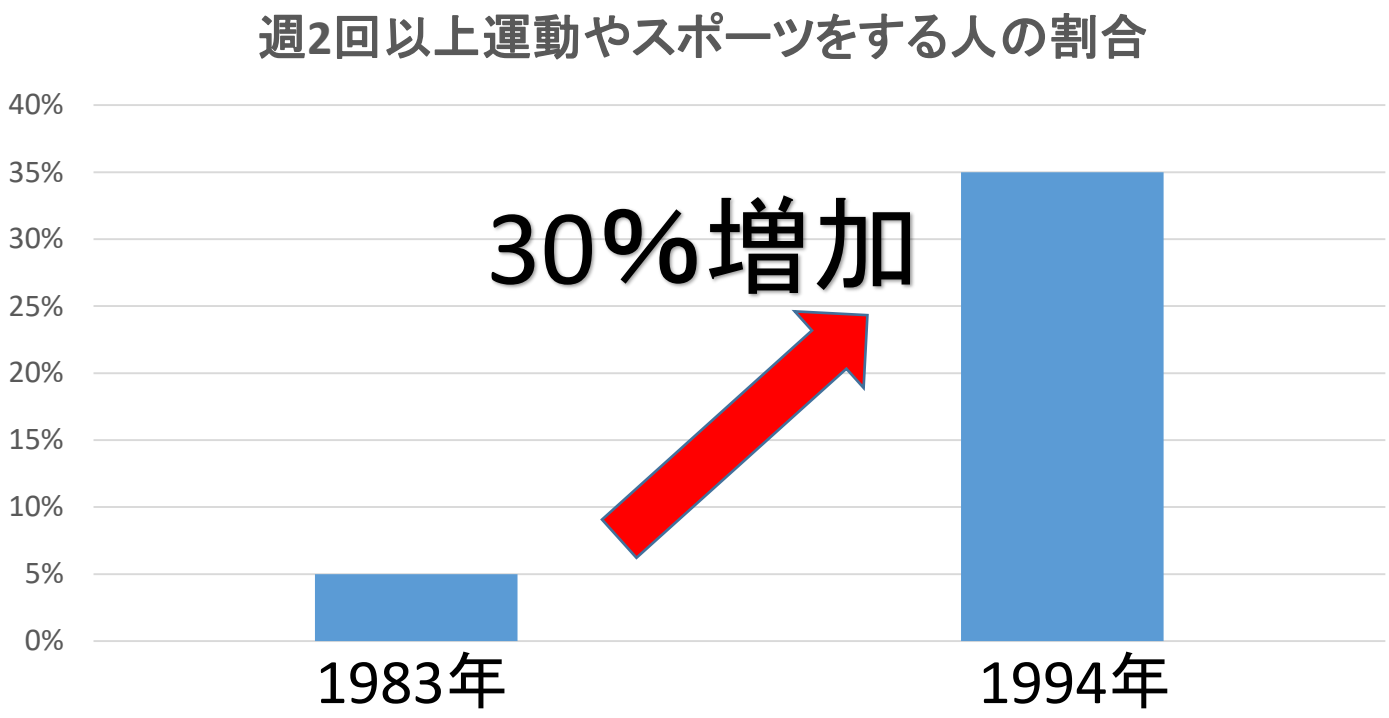
笹川スポーツ財団 チャレンジデー2017レポート

仮説

東海大学

チャレンジデーの実績

事例：カナダ



笹川スポーツ財団 チャレンジデー2017レポート

仮説

東海大学

チャレンジデー特徴

いつでも

スポーツボランティア版のチャレンジデーを行うことでスポーツボランティアの実施率を増加させることができる

向かって
一致団結する

一つの大

1. 緒言
2. 現状
3. 仮説
4. **調査目的と調査方法**
5. 結果と考察
6. 提言
7. 期待される効果

調査目的

東海大学

スポーツボランティア活動の現状と課題を明らかにする

スポーツボランティア版チャレンジデーの可能性は？

調査方法

東海大学

	秦野市役所 市民部 スポーツ推進課	伊勢原市役所 保健福祉部 スポーツ課
時期	2017年7月25日	2017年8月16日
方法	インタビュー調査 資料収集 メール調査	インタビュー調査 資料収集 メール調査

調査方法

東海大学

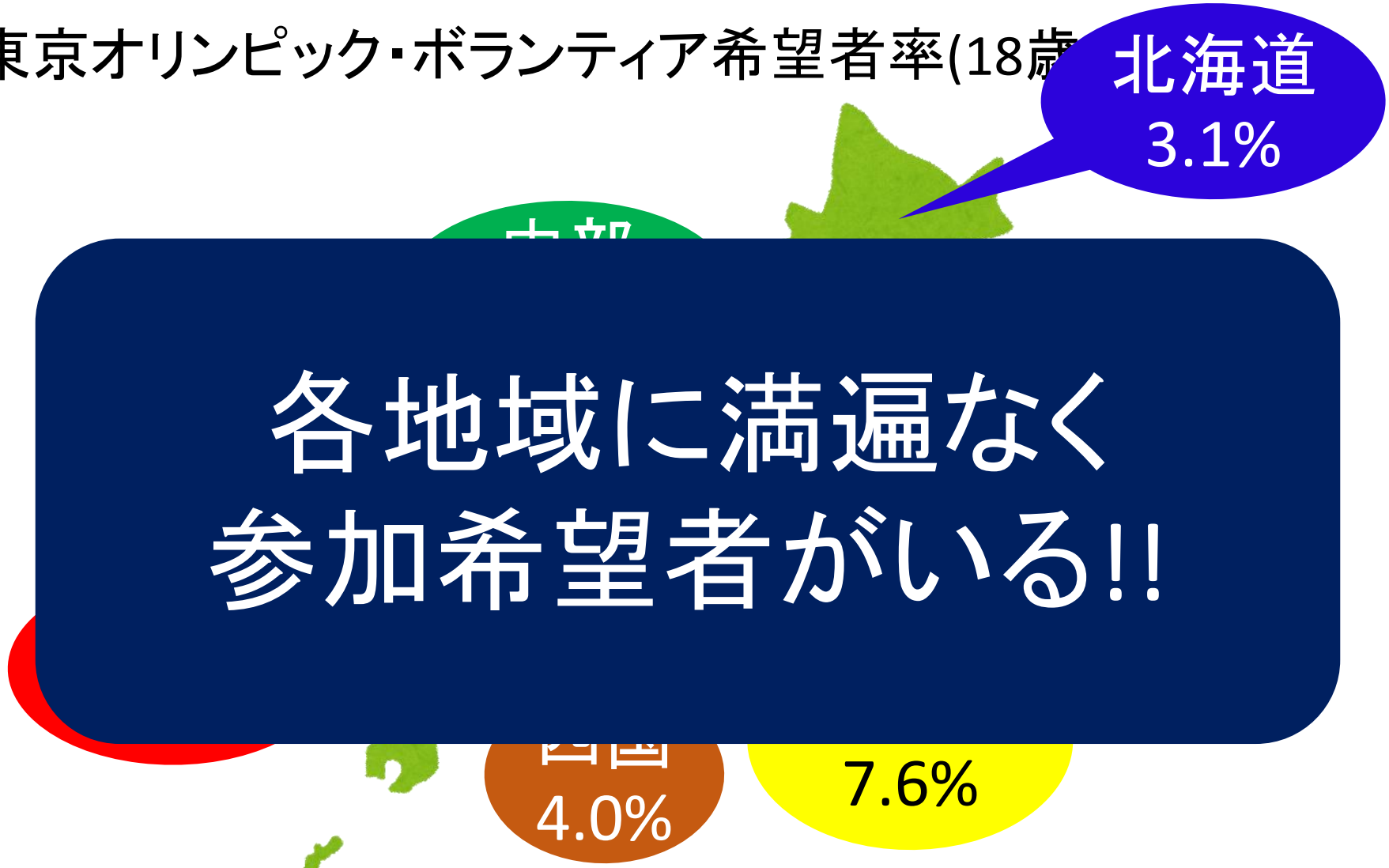
	日本スポーツボランティアアソシエーション兼 日本スポーツボランティアネットワーク理事長 兼 講師	スポーツボランティア研究者（大学教員）	スポーツボランティア研究者（大学教員）
時期	2017年 8月24日	2017年 9月20日	2017年 9月25日
方法	インタビュー調査	インタビュー調査 資料収集	メール調査

1. 緒言
2. 現状
3. 仮説
4. 調査目的と調査方法
5. **結果と考察**
6. 提言
7. 期待される効果

結果と考察

東海大学

東京オリンピック・ボランティア希望者率(18歳



各地域に満遍なく
参加希望者がいる!!

工藤保子(2017) わが国のスポーツボランティア戦略を概観する.
日本体育学会第68回大会配布資料.

結果と考察

東海大学

行政
（市役所）

行政はスポーツボランティア
推進活動を**模索中**

スポーツボランティア
登録制度

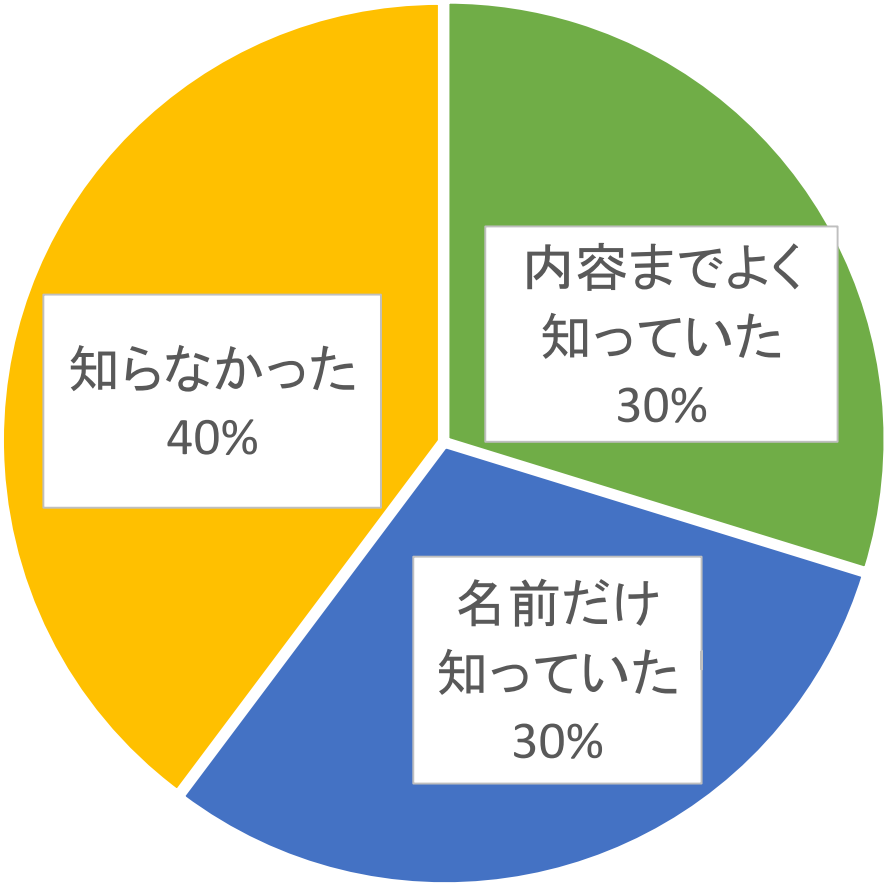
スポーツボランティア
講習会

スポーツボランティア
を行う機会の提供

結果と考察

東海大学

チャレンジデー認知度（秦野市）

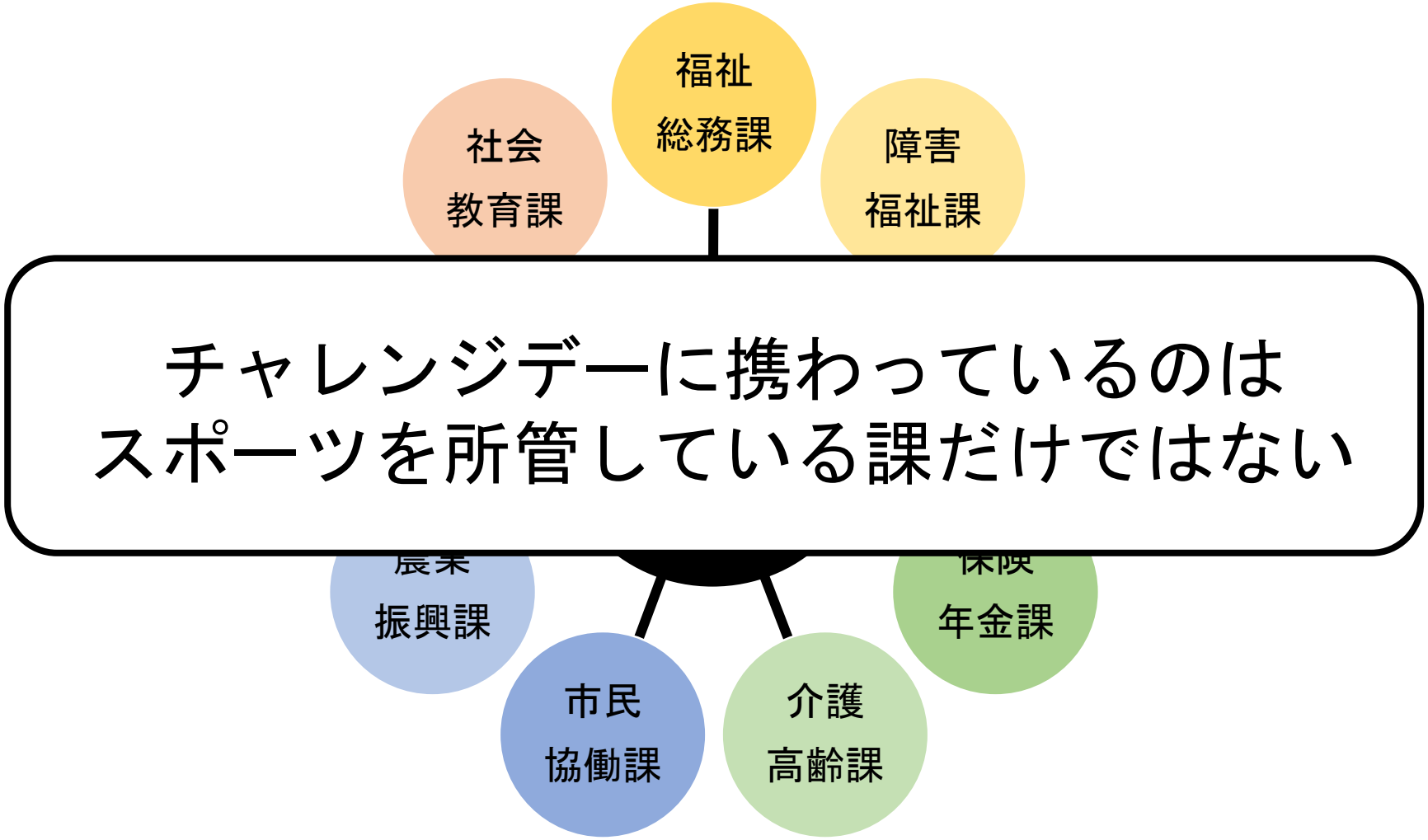


秦野市Webアンケート調査報告書（2017）

結果と考察

東海大学

チャレンジデーに携わっている部署

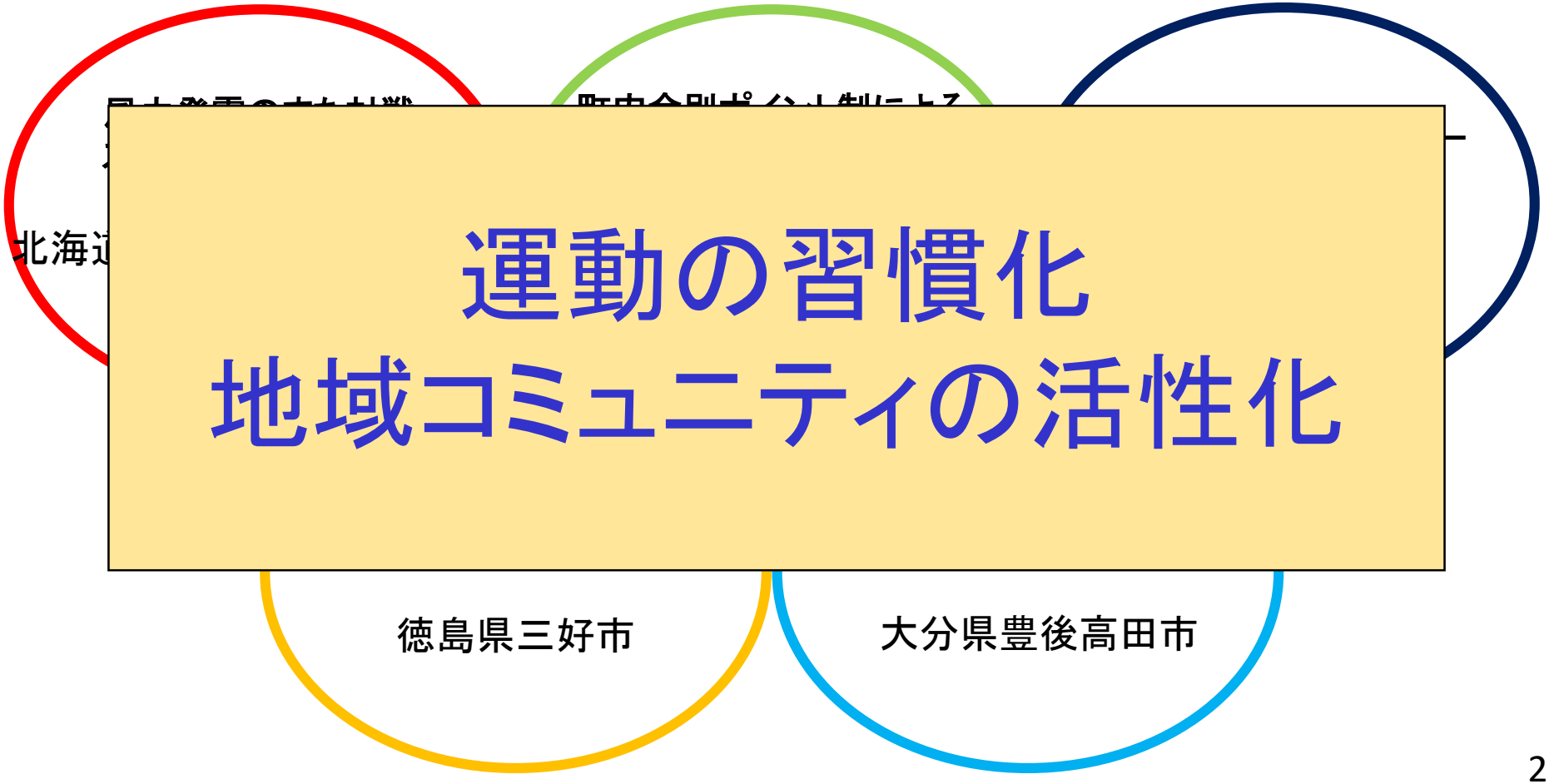


チャレンジデーに携わっているのは
スポーツを所管している課だけではない

結果と考察

東海大学

チャレンジデーをきっかけとした新たな事業



運動の習慣化
地域コミュニティの活性化

1. 緒言
2. 現状
3. 仮説
4. 調査目的と調査方法
5. 結果と考察
6. **提言**
7. 期待される効果

チャレボラ week

提言

東海大学

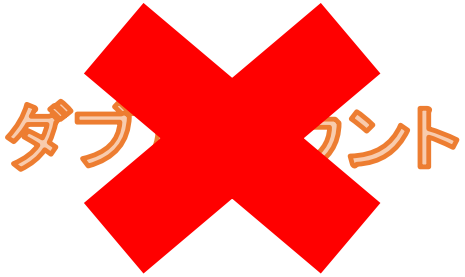
開催日時

毎年11月23日～11月29日の7日間

23日は
勤労感謝の日

投票方法

投票は１日１人１票を限度とする



全国共通イベント

チャレボラweekに取り組む各自治体の参加者が共通のルールにより参加できるスポーツイベントを実施

例：　スポーツボランティア講習会　学校の校庭清掃

提言

東海大学

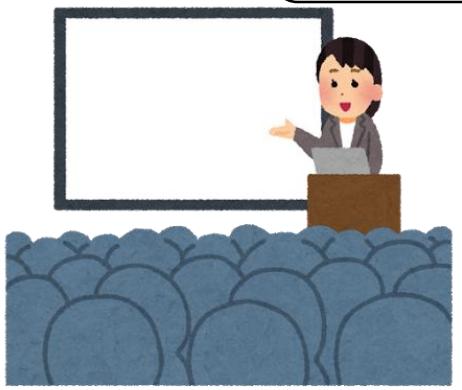
参加対象

スポーツ
ボランティア

する

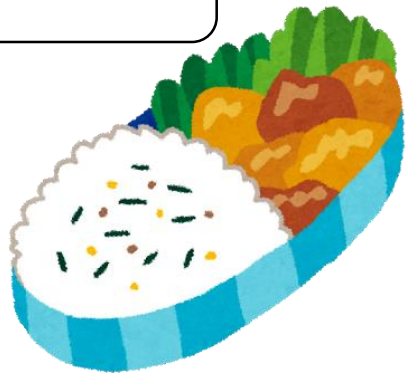
みる

ささえる



スポーツボランティアの
講習会に参加する

スポーツボランティアを
題材にした動画を観る



スポーツボランティアを
しにいく家族に弁当を作る

提言

東海大学

推奨する広報活動

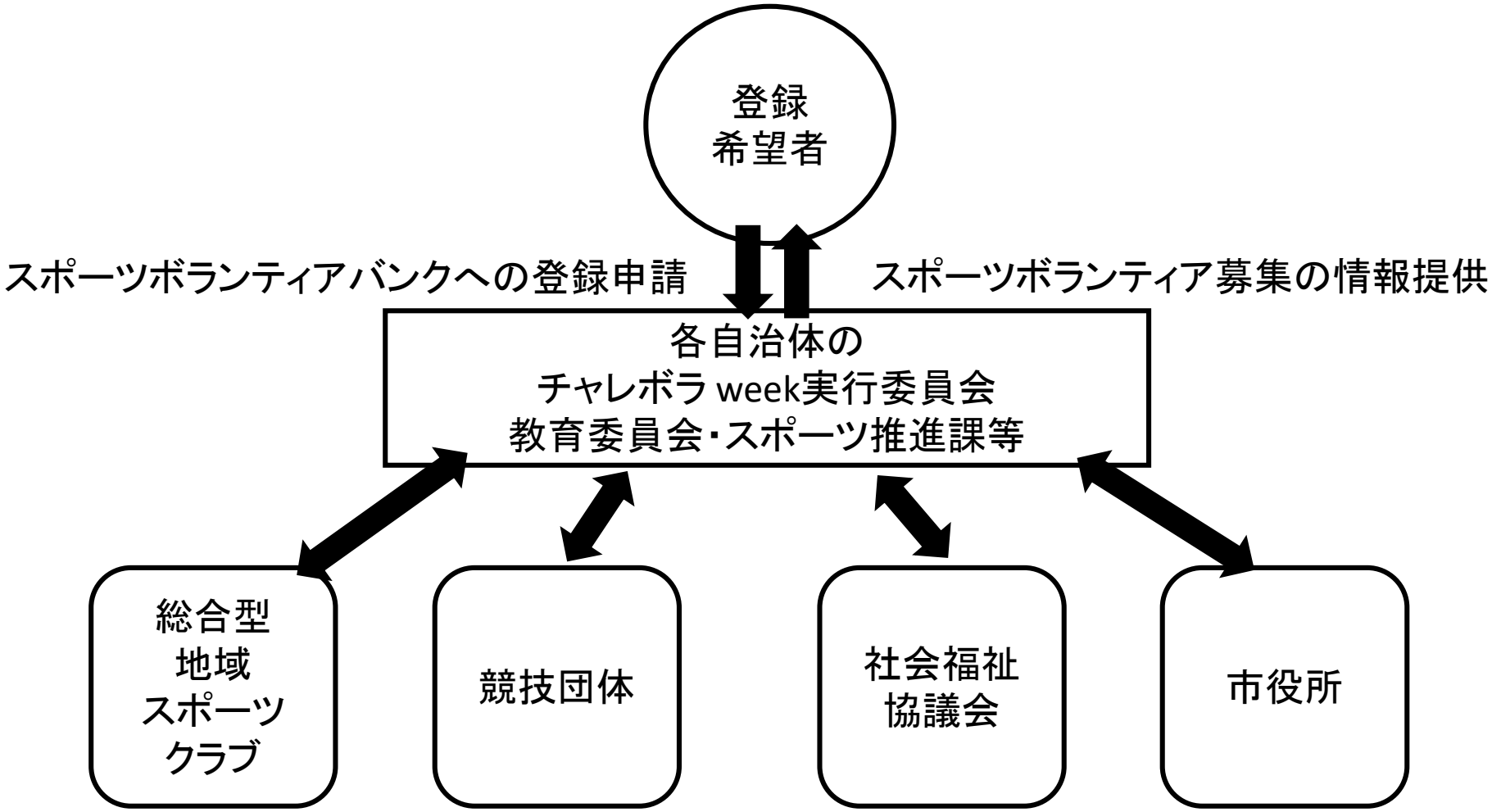
SNSの有効活用が必須

秦野市Webアンケート調査報告書（2017）

提言

東海大学

推奨する組織づくり案



提言

東海大学

チャレンジデー助成金について

人口によって6つのカテゴリーに分けられ、それぞれ助成金の額が異なる

カテゴリー1	カテゴリー2	カテゴリー3
• 4,999人以下 **200,000円**	• 5,000~9,999人 **280,000円**	• 10,000~29,999人 **400,000円**

カテゴリー4	カテゴリー5	カテゴリー6
• 30,000~69,999人 **460,000円**	• 70,000~249,999人 **620,000円**	• 250,000人以上 **900,000円**

提言

東海大学

運営費用

助成金上限　62万円

①初参加の場合

・周知啓発物品
(缶バッチ、クリアファイルなど)
など

②数回参加している場合

継続的にチャレボラweekを
行うことができる

提言

東海大学

チャレボラweek　年間スケジュール

第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階
アプローチ	プランニング	カウントダウン	チャレンジ	フォロー
4～6月	7～9月	10～11月	11月23日 ～ 11月29日	12～3月

提言

東海大学

アプローチ　4月～6月

① 実施の検討

② テーマ・目的の検討

③ 企画・運営の組織づくり

④予算の確保

⑤住民への広報活動

提言

東海大学

プランニング　7月～9月

① 実行委員会の設置

② イベントのプランニング

③ 広報活動

④ 関係機関・団体への参加協力依頼

⑤ 報道機関への積極的な働きかけ

⑥ 集計方法の検討

提言

東海大学

カウントダウン　10月～11月

① 参加報告用紙などの配布

② 運営ボランティアの募集

提言

東海大学

フォロー　12月～3月

① 関係者への報告

② 反省会の実施

③ 実施報告書及び決算書の提出

提言

東海大学

チャレボラweek　年間スケジュール

第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階
アプローチ	プランニング	カウントダウン	チャレンジ	フォロー
4～6月	7～9月	10～11月	11月23日 ～ 11月29日	12～3月

1. 緒言
2. 現状
3. 仮説
4. 調査目的と調査方法
5. 結果と考察
6. 提言
7. **期待される効果**

期待される効果

東海大学

スポーツ
ボランティア
普及

個人の
QOL向上

地域活性化

期待される効果

東海大学

認知度・興味関心を高める

参加しやすい環境の形成

人材不足の解消

スポーツボランティア普及

期待される効果

東海大学

期待される効果

東海大学

地域で活躍できる人材の育成

民間や行政などの連携の強化

スポーツ環境の充実化

地域住民同士のコミュニケーションの活発化

地域活性化

期待される効果

東海大学

スポーツ
ボランティア
普及

個人の
QOL向上

地域活性化

参考文献

東海大学

- 工藤保子(2017) わが国のスポーツボランティア戦略を概観する．日本体育学会第68回大会配布資料.
- 秦野市(2017) 秦野市Webアンケート調査報告書.
- 秦野市子ども健康部スポーツ振興課(2016) 秦野市スポーツ推進計画.
- 笹川スポーツ財団(2014) スポーツライフ・データ2014－スポーツライフに関する調査報告書－.
- 笹川スポーツ財団(2016) スポーツライフ・データ2016－スポーツライフに関する調査報告書－.
- 笹川スポーツ財団(2017a) スポーツ白書.
- 笹川スポーツ財団(2017b) チャレンジデー2017レポート.
- 笹川スポーツ財団　チャレンジデーガイド https://www.ssf.or.jp/Portals/0/resources/practice/challenge/2017/pdf/cday_guide.pdf.
- 山口泰雄(2004) スポーツボランティアへの招待―新しいスポーツ文化の可能性．世界思想社.

ご清聴ありがとうございました

東海大学
秋吉ゼミ
上杉 昂矢　　中谷 優太
沖 拓夢　　橘 尚志